

南阿蘇村 校務DX計画

南阿蘇村は、平成30年度に校務支援システムを導入しました。1人1台端末導入後は、児童用デジタル教科書等を活用し、学習におけるデジタル化を進めてきました。デジタル化・オンライン化を進めてはいますが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多く見られるのも事実です。そのため、校務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組を次のとおり定めます。

1 ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、南阿蘇村では、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネット経由で児童生徒の個人情報にアクセスできない構成となっています。教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

(2) 校務支援システムのクラウド化

現在利用している校務支援システムは、名簿情報管理・出欠席情報管理・成績処理・通知表作成・指導要録作成・保健管理など、幅広い業務で活用可能です。しかし、学習系で生成されつつある膨大なデータと、校務支援システムに蓄積された校務系データとの連携が困難であったり、クラウドベースとなっておらず、自宅や出張先での校務処理ができなかったりするなどの課題があります。

教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化について、全国の先進自治体の動向を調査します。そして、校務支援システムの次期更新時（令和10年）のクラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム設計、調達事務等を進めます。

2 ペーパーレスの推進

これまで南阿蘇村では、校内の職員会議等において、校務系サーバ等に保存した電子データを閲覧し共有することで、ペーパーレスを進めてきました。しかし、保護者配布文書については、依然として紙ベースで配布している現状があります。印刷にかかる経費と時間の削減のため、これまで以上にペーパーレスを進めていきます。

また、国・県・市町村から発出される文書について、電子決裁が可能となるシステムについて研究を進めます。

3 FAX及び押印の見直し

令和5年12月に文部科学省より発出された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されています。

南阿蘇村においても、紙ベースでの資料配布や押印の見直しを図っているところですが、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者においては、紙ベースやFAXでの資料配布・提出を求めるケースも見受けられます。緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAXのほうが電子メール等より効率的な場合などを除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、村教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

4 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

校務支援システムへの名簿情報の入力作業フローについて、「紙からの転記」「2重登録」等の不必要な手入力作業が発生しないよう、データの連携方法も含めて見直します。

5 GIGA環境・汎用アプリ・ツールの一層の活用

学校と保護者双方の負担軽減を目的に、学校からの文書配付や保護者からの参観日等の出欠届や各種アンケートへの回答などを可能な限り汎用アプリや汎用クラウドツールを活用したものに變更していきます。そのためにも、教務主任やICT担当者等の研修会を活用して、校務における効果的な活用の好事例を共有し、汎用アプリ・汎用クラウドツールの活用を推進していきます。